

月の月例経済報告で、豊政府は17日発表した6月の月例経済報告で、豊気の基調判断を2カ月連続で上方修正した。一部に持ち直し動きがみられるとして7カ月ぶりに「悪化」の表現を削除し生産や輸出の持ち直しを受けて主要先進国の中で最も早く景気底打ちを宣言した。ただ先行きにについては、雇用情勢の悪化や世界景気の下振れといった景気下押しリスクを注視する姿勢を維持した。(関連記事5面に)

先行きには慎重

与謝野馨財務・金融・経済財政相は同日の記者会見で「景気は底を打ったと強く推定できる」と

政府「景気底打ち」宣言

6月の月例報告 2ヵ月連続で上方修正

景気の基調判断		
☐ は上方修正 ☒ は下方修正 ☒ は据え置き		
	基調判断	
08年	11月	☒ 弱まっている
	12月	☒ 悪化している
2009年	1月	☒ 急速に悪化している
	2月	☒ 急速な悪化が続き厳しい状況
	3月	☒ 同 上
	4月	☒ 同 上
	5月	☐ 悪化のテンポが緩やかに
	6月	☐ 一部に持ち直しの動き

「悪化」7カ月ぶり削除

強調。先行きについては「当然下振れリスクが存在する。常に注意深い経済財政運営が必要だ」として、慎重な見方を示した。

「底打ち」判断の主因は生産の持ち直しだ。企業生産は明らかに1〜3月が底だったと指摘した。内需の柱である個人消費もエコカー減税の効果などで4月以降は自動車断行を止めた。

録。与謝野氏は「輸出、の新販売台数が前月比で増加に転じており」「一部に下げ止まりの兆し」として2年ぶりに上方修正。輸入と倒産件数も判断を引き上げた。

日本も実質成長率が戦後最悪のマイナスを記録するなど深刻な打撃を受けたが、約半年で最悪期を脱したことになる。

ただ先行きのリスクも

い景気指標が出たことが、めがかったくない。内主因。だが背後には、政府として過去最大規模の経済対策を打ち出した成果を強調しておきたいと思惑も潜む。

とみている。

主な判断項目と最近の経済指標

↗は上方修正、↘は下方修正、→は据え置き

▼個人消費(ノ)
「一部に下げ止まりの兆し」
0.7%増(4月の消費総合指数)
エコカー減税の影響などで自動車販売が増加
▼生産(ノ)「持ち直している」
5.9%増(4月の鉱工業生産指数)
56年ぶりの高い伸び率に
▼輸出(ノ)
「持ち直しの動きがみられる」
3.4%増(4月の輸出数量指数)
2カ月連続でプラスに
▼倒産件数(ノ)「おおむね横ばい」
6.7%減(5月の企業倒産件数)
12カ月ぶりマイナスに
▼設備投資(ノ)「大幅に減少」
15.7%減(4月の資本財出荷指数)
2ケタ台の大幅な減少率

(注)前月比、倒産件数のみ前年同月比

勘案すると「底打ち」との表現に違和感も残る。内閣府によると、景気の「底打ち」は悪化を続けていた景気が上昇局面に転じた状態を指す。景気の悪化が下げ止まった状態を意味する「底入れ」に比べ、やや強い表現だと定義している。

こうした現状を受け、先行きについては「雇用情勢が悪化するなかで、